

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名 <b>プロアマ・アクア レイダー</b>	投球者 <b>徳江 和則</b>	センター <b>平和島スターボウル</b>
RG <b>2.520</b>	△RG <b>0.045</b>	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

**テストボール：プロアマ・アクア レイダー**

フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

**比較対照ボール：プロアマ・アタックレイダー**

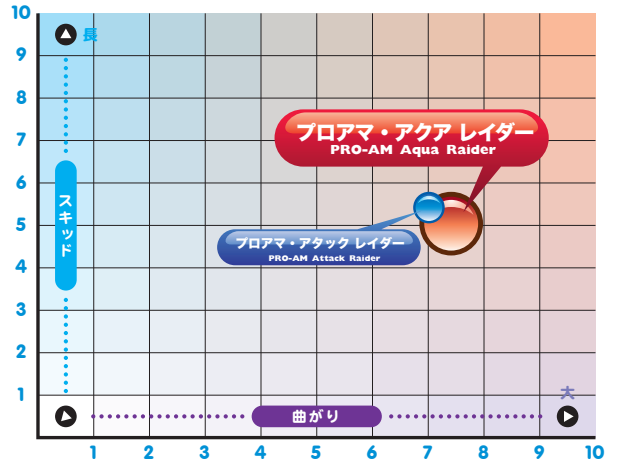
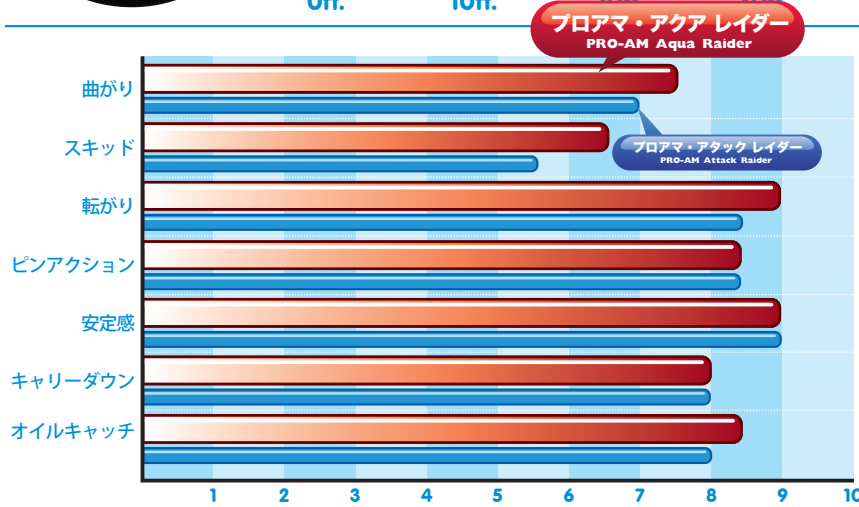
フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



### ボールの評価

Pro-amシリーズの中でミディアムからミディアムライトなコンディションで扱いやすさを求めたRaiderシリーズ。今回のAqua Raiderは初代レイダーで使用したToro(灯籠)2.52コア、カバーストックに新採用のControl 6.1Pリアクティブを搭載しました。開発コンセプトは初代レイダーとAir Raiderのちょうど中間、スキッドを重視しながら柔らかくしっかりとフィニッシュさせることを目的としました。対応コンディションはミディアムからミディアムライトまで、やや遅めのコンディションで扱いやすくゲームメイクできるボールです。

Pro-amシリーズでMid Performance領域のRaiderですが、先で攻撃的なラインを攻めるInvaderかコントロール性の高いRaiderと使い分けている方が多いようです。現在ではAngularに動くInvaderがPro-amの主流と先行される中、転がりを重視しながらコントロール性の高い性能のボールを求められているのも確かです。このAqua Raiderはその一つで、今回コアをToro(灯籠)にしたのは消極的な選択ではなく、「如何に実用性の高さを求めた」積極的な選択であり、Invaderでは暴れる傾向がある方には気に入って使用して頂けるでしょう。

実際に様々なコンディションでラインを取ってみると、Aqua Raiderでややまっすぐ目にラインを取れるコンディションやショート気味なコンディションで特に実用性が高く感じます。このControl 6.1Pリアクティブは2000-grit ポリッシュ仕上げの効果もあり、キャッチを損なわずにスキッドも出ていますので、バックエンドでのパワーロスも感じられません。曲がり始めてからフィニッシュまでの軌道が読みやすく回転方向にダイレクトにボールは反応しますので、回転数の多めの方もきっと気に入って頂けると思います。

### 特記事項

**Black/Silver Pearlの配色でややシックに重厚感のある仕上げを目指しました。Raiderの最新作はやや軽めのスキッド感と扱いやすい曲がり特徴です。**